

ABIC 国際社会貢献センター

Information Letter

No. 52 2018年6月

第55回理事会・第18回通常総会および第56回理事会を開催

新会長に中村邦晴住友商事会長が就任	2
2017年度（平成29年度）事業報告	2
2018年度（平成30年度）事業計画	5
2017年度（平成29年度）決算及び2018年度（平成30年度）予算	6
役員等	6

自治体・中小企業支援	高知県の「事業戦略」策定に携わって	7
留学生支援	東京国際交流館での活動	8
	兵庫国際交流会館での活動	8
その他	科学技術館の鉄鋼ボランティア活動を終えて	9

ABIC事務局組織	10
会員の種類	11
法人・個人正会員／賛助会員一覧、活動会員数	11
賛助会員入会のお願	12

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)
Action for a Better International Community

<http://www.abic.or.jp>

〒105-6123 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル23階
Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5970
e-mail : mail@abic.or.jp

(関西デスク) 〒541-0053 大阪市中央区本町4-4-24
住友生命本町第2ビル9階
Tel & Fax : 06-6226-7955
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

第55回理事会・第18回通常総会および第56回理事会を開催 新会長に中村邦晴住友商事会長が就任

5月31日（木）日本貿易会会議室において第55回理事会ならびに第18回通常総会がそれぞれ開催されました。議題として①2017年度事業報告及び収支決算、②2018年度事業計画及び活動予算、③任期満了に伴う役員の選任、④名誉会長の推薦、⑤正会員の入会が審議され、いずれも原案通り承認されました。小林栄三会長（伊藤忠商事特別理事）は名誉会長に推薦され、個人正会員に中村邦晴氏（住友商事会長）が入会。副会長には鈴木善久伊藤忠商事社長COO、貸谷伊知郎豊田通商社長・CEOの2人が新たに委嘱されました。



また、翌6月1日（金）の第56回理事会において、中村邦晴住友商事会長がABIC第6代会長に選任されました。

中村邦晴会長就任あいさつ

広く社会に貢献するABICの活動は、国際交流促進、経済活動の活性化、社会教育の推進、学生の健全育成など、今まさに国内外で求められている社会貢献活動であると思います。また、ABICの活動は、広範な分野でその存在意義が認められてきており、社会の機能の重要な担い手としてその役割はますます大きくなっています。これからの豊かな日本と国際社会の発展のため、ささやかながらも貢献できればと考えております。関係各位の絶大なるご支援・ご協力を引き続き賜りますようよろしくお願い申し上げます。



中村会長

2017年度（平成29年度）事業報告

活動分野	主要事業	主な活動状況 ＜活動実績：2017年度 延べ人数 2,447名＞ ＜2018年3月末活動会員数：2,836名（2017年3月末比86名増加）＞	活動実績 (延べ人数)		
			2016年度	2017年度	00～17 年度累計
政府機関	ODA関連等への人材推薦・紹介、政府関係諸事業の受託、本邦中小企業支援事業関連への人材推薦・紹介、セミナーへの講師派遣等	<ul style="list-style-type: none"> 海外での活動：JICA海外長期・短期専門家（エジプト、ザンビア、タンザニア、ミャンマー）、科学技術振興機構インド事務所長、任期付外務省在外公館職員、内閣府対米広報短期派遣員、中東協力センターサウジアラビア職業訓練所長（両国政府間協働事業案件）、国際交流基金「日本語パートナーズ派遣事業」支援員（同事業開始以来の会員の合格者は13名）、在ロシア日本センター研修事業講師4名派遣。 国内での活動：科学技術振興機構専門職、JETRO新輸出大国コンソーシアム専門家（エキスパート事業・パートナー事業）、JETRO輸出有望案件発掘支援事業専門家、中小企業基盤整備機構の中小企業支援アドバイザーに合計31名。厚生労働省外国人就労・定着支援事業に日本語講師13名紹介（採用）。 文部科学省「住環境・就職支援等留学生受入れ環境充実事業委員会」、国際交流基金「日本語パートナーズ派遣事業委員会」、放送番組国際交流センター「番組評価委員会」等の委員を務めた。また、農林水産省、厚生労働省、経済産業省、中小企業庁等とのコンタクトを行い、公募案件への推薦・紹介・受託による活動を行った。 	93	166	1,626
NGO/NPO 非政府機関	人材推薦・紹介、活動強化への協力	<ul style="list-style-type: none"> ABICの活動理解・促進のための面談、活動に関する情報収集を行い、協業につき模索した。 	2	2	172
地方自治体・ 中小企業支援	地方自治体の推進する中小企業育成支援や農産品等輸出促進・企業誘致等への協力および中小企業、諸組織への直接支援・協力	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治体および関係団体との取り組みの一層の推進（販路開拓支援、国際化支援、海外ビジネス促進、産品輸出拡大等々）： ①年間業務委託＝和歌山県およびわかやま産業振興財団、やまぐち産業振興財団、鳥取県産業振興機構、石川県、福井県、横浜市、品川区へ継続支援・協力。 ②人材紹介・推薦＝青森県物産振興協会、福島県および福島県貿易促進協議会、茨城県中小企業振興公社、千葉県産業振興センター、埼玉県産業振興公社、東京都中小企業振興公社、富山県新世紀産業機構、富山県環日本海経済交流センター、佐賀県、彦根市、滋賀県産業支援プラザ、東大阪市産業創造勤務者支援機構（クリコア）、神戸市アジア進出支援センターへさまざまなアドバイザー、翻訳、通訳等で継続して支援。また、新規に高知県産業振興センター、高知県移住促進・人材確保センターとの取り組みも開始。 ③自治体等が主催するセミナーへの講師派遣も行った。 	892	794	7,444

活動分野	主要事業	主な活動状況 ＜活動実績：2017年度 延べ人数 2,447名＞ ＜2018年3月末活動会員数：2,836名（2017年3月末比86名増加）＞	活動実績 (延べ人数)		
			2016年度	2017年度	00～17 年度累計
(続き)	(続き)	<ul style="list-style-type: none"> 自治体国際化協会（クレア）経済アドバイザー継続。中小企業基盤整備機構主催の中小企業海外ビジネスサポート（SWBS）相談会への参加に伴う2件の直接企業支援実績。その他、個別企業支援を約20社に対して行い、その中には、米国、中国、モンゴルへの派遣もあった。 地方自治体、中小企業・団体における会員の活動が評価され、人材支援要請が会員経由等も含めて各所からあり、活動機会がさらに広がった。 			
外国企業支援	外国企業の日本進出・販路開拓支援および日本企業海外赴任者研修等	<ul style="list-style-type: none"> ナノテクノロジー国際総合展やFoodex 2018でのバイリンガル・ビジネス・アドバイザーを海外企業等から直接要請を受け6名の会員を派遣した。香港の著名大学学生40名の日本での企業訪問・インターンシップ研修の支援を行った。 企業の海外赴任前研修（日本貿易会から受託等）や人材派遣会社等での経理（含む、英文経理）研修に対して講師を派遣した。 	149	144	1,039
教育	大学および社会人講座	<ul style="list-style-type: none"> 年間で39大学・組織へ講師を派遣。年間講座数71、コマ数1,331を実施。対象組織数、年間講座数が昨年度比減少したが、会員の活動実績・コマ数は増加した。授業を行う前の勉強会（第12回ABIC大学・EC講座講師勉強会（大学で授業を行うための講習会））を開催し、多くの会員に講師の機会を提供した。また、英語による講義に対応すべく、英語教授法の勉強会も内容をレベルアップして継続実施し、会員の活動機会提供に努めた。 従来の産業論、地域論を核とする授業に加え、東洋大学国際学部グローバル・イノベーション学科における「多国籍企業とグローバリゼーション」、亜細亜大学経済学部「経済学特講（アジアに住む）」など、新たな講義を提供した。 東京外国語大学社会・国際貢献情報センターと協働して、産学連携国際講座の講師を派遣し、語学指導ではない世界に焦点を当てたテーマでの講座を開催した。 複数の大学にアプローチしたり、ABICの活動に関連するセミナーなどでABIC大学講座のPRを行い、新規講座獲得に向けて協議を行った。 	289	300	4,703
	小・中・高等学校での授業	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育、職業講話のための講師派遣、在日外国人児童への日本語指導等 小中高校生や教職員への国際理解講義・講演会に引き続き注力。 横浜商業高校、横浜市立中学校3校で職業講話を実施。また、池袋第一小学校、国分寺市立第十小学校ではオリ・パラ教育（国際理解教育）を実施した。関西地区でも大津市立栗津中学校、兵庫県立尼崎小田高校、兵庫県立上郡高校などで国際理解の授業を実施した。 海外からの留学高校生と日本の高校生との「高校生国際交流の集い」（1泊2日）を関西学院大学で実施した。関東では青山学院大学と連携し「高校生国際交流の集いABICキャンプ」を実施した。 東京都多摩市および新宿区において教育委員会等に協力し、外国籍児童・生徒に対する日本語学習支援を実施。 滋賀県教育委員会学校支援センター HPIにABIC関西デスクの国際支援教育活動内容を登録継続。京都市教育委員会にも同様の団体登録継続。 	156	166	1,532
在日留学生	在日留学生支援・交流	<ul style="list-style-type: none"> 東京国際交流館において日本語広場、日本文化教室（書道、華道、空手、茶道、囲碁、将棋）に多数の会員が講師として貢献するとともに、バザー、フェスティバル等の催しにも協力。兵庫国際交流会館でも日本語教室、日本文化教室（書道、華道、空手）を継続して実施し、館内外より多数の学生が参加した。バザーや文化祭にも協力した。 2006年度から開始した東京国際交流館在住の留学生家族支援（健康診断、子女入園・入学手続き等）を継続し、大変好評を得ている。 	671	675	4,371
国際イベント	国際イベント等への協力	<ul style="list-style-type: none"> 国際大会へのボランティア派遣要請はなし。 	0	0	185
その他活動・一般人材紹介等	その他活動・一般人材紹介等	<ul style="list-style-type: none"> 三井物産の社会貢献事業「在日ブラジル人子女教育支援」①奨学金供与プロジェクト②NPO等支援プロジェクト等を継続。 中京大学/帝京大学/日本文化大学/神田外語大学の教授・講師、東京外国語大学職員、日仏会館事務局長が継続。 ABIC日本語教師養成講座（第22、23期）を実施し23名が受講修了。第1期から23期までの講座修了者216名の内、半数近くが地方公共団体や東京国際交流館において日本語講師として活躍している。 双日の本社採用外国人社員4名に対して対面式ビジネス日本語研修を継続実施し、日本語教師養成講座修了者6名が対応した。 東京外国語大学留学生支援協会の依頼により、会員3名が日本語指導を継続実施した。 	143	200	1,556
合 計			2,395	2,447	22,628

活動会員 関係	活動会員 増強	<ul style="list-style-type: none"> 各社OB/OGへの配布文書や退職時の一連書類に同封。委員会等での活動報告。
	活動会員 スキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 大学・EC等講座講師勉強会等を実施（11月、第12回ABIC大学・EC講座講師勉強会、12月、Teaching in English in Japanese Universities）。 2006年10月開講の日本語教師養成講座を継続し、今年度は第22、23期合計23名が修了証を取得。
	懇親会	<ul style="list-style-type: none"> 9月21日に東京、3月6日に大阪で開催。会長以下、多数の活動会員、関係者が出席して親睦を深めた。
広報活動等		<ul style="list-style-type: none"> 活動会員、関係先向けの『ABIC Information Letter』を発行（年3回 6/11/3月） 日本貿易会の機関誌『日本貿易会月報』に毎号「ABIC PLAZA」のコーナーでABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載し、ABIC活動のPR、紹介に努めた。また日本貿易会のホームページにおいてもABICのホームページをリンク。 週刊東洋経済（2017.9.30号）の特集「生涯現役で働く」で、経験を生かして退職後も活躍している人の「商社編」としてABICの取り組み、会員の活躍が紹介された。 東京都教職員研修、北海道総合研究調査会や個別団体向けのプレゼン実施。 文部科学省管轄「住環境・就職支援等受入れ環境充実事業（留学生交流拠点整備事業）」、外務省管轄「国際交流基金日本語パートナーズ派遣事業委員会」、放送番組国際交流センターの「番組評価委員会」等でABICのPRに努めた。 東京国際交流館および兵庫国際交流会館が主催するバザーに協力。また、夏の「交流館フェスティバル」において、ABICが指導している茶道、華道、書道コーナーを設けて来場者に対応した。バザーは、ABIC活動会員ならびに社会貢献・ABIC委員会経由法人正会員各社役員から多くの品物を寄贈いただき、売上金のほとんどを交流館の行事に役立ててもらおうべく寄贈した。
事務局関係	事務局体制	<ul style="list-style-type: none"> 事務局は23名体制（事務局長1名＋職員2名＋東京CN15名＋関西CN5名） 在日ブラジル人子女教育支援の特定プロジェクトスタッフ。 <p>事務局長： 山口俊之</p> <p>経理・総務： 名鏡敬治、青柳友紀、秋元まゆみ</p> <p>地方自治体・中小企業支援グループ： 川俣二郎、野津 浩、白石一郎、高塚謙次、山中健司</p> <p>外国企業支援グループ： 西山勝昭、宮内雄史</p> <p>大学・EC講座グループ： 森 和重、猪狩真弓、恩田英治、坂野正典、増井哲治、(宮内雄史)</p> <p>小中高校国際理解教育グループ： (宮内雄史)</p> <p>留学生支援グループ： 田中武夫、鉄形 勲</p> <p>中南米デスク： (森 和重)</p> <p>在日ブラジル人子女教育支援チーム： (森 和重)、星野和俊、柴崎敏男、安達公一、小池康雄、藤下温雄、長谷川 保、松本一子</p> <p>関西デスク： 藤原照明、橋 弘志、吉富茂隆、松尾謙二、鹿志村 馨</p> <p>()は兼務者</p>

会員状況	正会員	法人	<ul style="list-style-type: none"> 16社、1団体（2017年3月末比増減なし）：伊藤忠商事、稲畑産業、岩谷産業、兼松、興和、JFE商事、住友商事、双日、蝶理、豊田通商、長瀬産業、阪和興業、日立ハイテクノロジーズ、丸紅、三井物産、三菱商事、日本貿易会（社名50音順）
		個人	<ul style="list-style-type: none"> 12名（2017年3月末比1名増）：池上久雄、寺島実郎、小島順彦、宮原賢次、吉田靖男、岡素之、佐々木幹夫、勝俣宣夫、小林栄三、槍田松瑩、市村泰男、齊藤秀久（敬称略・入会順）
	賛助会員	法人	<ul style="list-style-type: none"> 3社（2017年3月末比1社減）：イーコマース研究所、エックス・エヌ、賛否両論（社名50音順）
		個人	<ul style="list-style-type: none"> 314名（2017年3月末比90名減）
	活動会員	<ul style="list-style-type: none"> 2,836名（2017年3月末比86名増） 	

(2018年3月末現在)

年度毎活動実績	延べ人数
2000年度 (H12)	17
2001年度 (H13)	237
2002年度 (H14)	445
2003年度 (H15)	588
2004年度 (H16)	569
2005年度 (H17)	751
2006年度 (H18)	779
2007年度 (H19)	1,144
2008年度 (H20)	1,305
2009年度 (H21)	1,440
2010年度 (H22)	1,429
2011年度 (H23)	1,390
2012年度 (H24)	1,602
2013年度 (H25)	1,640
2014年度 (H26)	2,070
2015年度 (H27)	2,380
2016年度 (H28)	2,395
2017年度 (H29)	2,447

2018年度（平成30年度）事業計画

活動分野	主要事業	重点活動内容	延べ人数	
			2017年度実績	2018年度目標
政府機関関連	ODA関連の人材紹介、政府機関諸事業の受託、人材育成セミナー等への講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> 海外での活動：JICA「海外専門家」「シニア海外ボランティア」、国際交流基金「日本語パートナーズ派遣事業」「日米交流ファシリテーター」「日本語教育サポーター」、内閣府「対米広報短期派遣事業」、在ロシア日本センター研修事業等への人材紹介・推薦。 国内での活動：JETRO「中小企業海外進出支援嘱託職員、貿易相談員」「新輸出大国コンソーシアム事業」、中小企業基盤整備機構「中小企業支援事業アドバイザー」、海外産業人材育成協会（AOTS）での研修講師等の人材紹介・推薦。 内閣府、経済産業省、外務省、文部科学省、農林水産省、観光庁、国際協力基金、JETRO、JICA、AOTS等と関係機関とのコンタクト維持・強化。 	166	160
NGO/NPO等非政府機関	NGO等への人材紹介、活動への協力	<ul style="list-style-type: none"> NGO、NPOなどの関係機関に対してABIC活動の理解・促進に努める。 NPO、NGO主催のイベントへのボランティア人材紹介。 	2	3
地方自治体・中小企業支援	地方自治体の国際化・中小企業の販売促進活動・海外進出・経営支援・協力、中小企業への直接支援	<ul style="list-style-type: none"> 年間業務委託契約締結先の地方自治体（和歌山県/わかやま産業振興財団、山口県/やまぐち産業振興財団、高知県/移住促進・人材確保センター、鳥取県/産業振興機構、石川県、福井県、宮崎県など）との関係強化。新規地方自治体との業務委託契約の獲得。 継続支援・協力先の地方自治体（東京都/ビジネスナビゲーター・海外販路開拓非常勤職員、大阪府・東大阪市共同のクリエイションコア、大阪国際経済振興センター、神戸市/産業振興財団、神戸市商工会議所、滋賀県/産業支援プラザ、福島県、青森県、茨城県、岐阜県、埼玉県等）との関係維持。他自治体に対してABIC活動の理解・促進に努める。 経済同友会、経団連、商工会議所や中小企業からの直接支援要請への即応。 	794	750
外国企業支援	外国企業の日本進出・販路開拓支援および海外赴任者研修等	<ul style="list-style-type: none"> 国際見本市や海外からの各種ミッション、在日大使館、来日外国企業の商談等への協力。外国機関駐日オフィスとのコンタクト維持・強化。 在日外国企業との連携強化・拡大。海外赴任者研修等講師派遣（含、日本貿易会との協働）。 	144	150
教育	大学および社会人講座	<ul style="list-style-type: none"> 実施大学・組織およびコマ数の維持・拡大を図りつつ、講師陣の拡充を図る。新規大学・新規講師の発掘を積極的に行う。 提案型講座の拡大。 2006年1月に包括協定締結の立命館APUとの関係維持。 2003年12月に連携協力協定締結の関西学院大学との各種協力関係の維持・拡大（講座維持、国際理解教育協力等）。 スーパーグローバル大学・グローバル人材育成推進事業採択大学への積極アプローチ（筑波大学、関西学院大学、創価大学他）。 	300	300
	国際理解教育支援等	<ul style="list-style-type: none"> スーパーグローバルハイスクールをはじめ小中高校での講義・講演先の開拓。文部科学省、自治体教育委員会との連携強化。 オリンピック・パラリンピックを見据えた国際理解教育の取り組み強化。 新宿区や多摩地区の小学校における在日外国人児童への日本語指導（外国にルーツを持つ児童・生徒向け日本語指導）支援。 	166	200
在日留学生支援	在日留学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 東京国際交流館、兵庫国際交流会館における日本語広場（日本語教室）、日本文化教室への講師派遣。バザー、フェスティバル等の催事への協力。 東京国際交流館在住の留学生家族支援ボランティア（出産、通院、育児、健康管理、入園・就学等）活動の充実。 	675	675
国際イベント等	イベント等への協力	<ul style="list-style-type: none"> オリンピック・パラリンピック委員会、ラグビーワールドカップ2019組織委員会との関係構築。 	0	10
その他活動・一般人材紹介等	その他活動・一般人材紹介	<ul style="list-style-type: none"> 日本貿易会ならびに法人会員各社の社会貢献活動への人材面での支援・協力。 三井物産の「在日ブラジル人子女教育支援」プロジェクトへの実務支援。 中京大学・日本文化大学等の教授・講師、東京外国語大学事務員、神田外語大学職員、科学技術振興機構等教育研究機関を主体とした人材の契約継続。民間企業への新規人材紹介発掘。 ABIC日本語教師養成講座教師に加え、社会貢献に資する求人への積極的対応。 	200	200
合計			2,447	2,448

活動会員関係	活動会員勧誘	<ul style="list-style-type: none"> 日本貿易会 社会貢献・ABIC委員会など各委員会での報告を通じた活動理解およびリニューアルしたホームページ等でのABIC紹介。 現活動会員へも引き続き知己勧誘を依頼。
	賛助会員勧誘	<ul style="list-style-type: none"> 賛助会員の増加に向け、活動が決まった会員への賛助会員入会依頼を継続。
	活動会員スキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 2006年10月より続けている日本語教師養成講座の実施。 大学等講座講師勉強会（含、英語授業法）の実施。 個別の勉強会実施。
	懇親会	<ul style="list-style-type: none"> 東京・大阪での開催。
法人会員関係	法人会員勧誘	<ul style="list-style-type: none"> 法人会員増に向けて注力。

広報活動	<ul style="list-style-type: none"> 会員、関係先向けの「ABIC Information Letter」を発行（年3回 6/11/3月）。 日本貿易会の機関誌「日本貿易会月報」に毎号「ABIC PLAZA」のコーナーやJFTC News（英文）でABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載。 会長交代とともにパンフレットを新規切り替え。2月にリニューアルしたホームページをさらに更新。 東京国際交流館・兵庫国際交流会館が主催する春・秋のバザーへの協力。「交流館フェスティバル」でABICのPRや活動を紹介。 文部科学省「住環境・就職支援等受入れ環境の充実事業」、国際交流基金「日本語パートナーズ派遣事業委員会」などでのABIC広報活動継続。 新聞、TV、ラジオ、雑誌等への対応。 	
事務局関係	事務局体制	<ul style="list-style-type: none"> 活動方針のベクトル合わせおよびコーディネーター相互の情報交換促進のための全体会議を年1回、グループ別の会議を1～2カ月に1回開催。 法改正を含むスキルアップのための研修を実施。 東京事務局と関西デスクの連携強化。
	事務局運営	<ul style="list-style-type: none"> 各種データの整理等、業務改善への注力。 諸契約、規則・規程の整備・充実。

2017年度（平成29年度）決算及び 2018年度（平成30年度）予算

(単位：千円)

科目	2017年度 決算額	2018年度 予算額
I 経常収益		
(1) 受取会費	6,515	6,590
法人会費	(4,710)	(4,850)
個人会費	(1,805)	(1,740)
(2) 受取寄付金	5	
(3) 事業収益	79,864	79,300
日本貿易会	(24,192)	(24,192)
その他	(55,672)	(55,108)
(4) 雑収益	34	32
経常収益計	86,418	85,922
II 経常費用		
(1) 事業費	58,790	56,931
(2) 管理費	33,385	33,946
経常費用計	92,175	90,877
当期経常増減額	- 5,757	- 4,955
前期繰越正味財産額	23,117	17,360
次期繰越正味財産額	17,360	12,405

役員等

(敬称略・就任順)

会長 (新任)	中村 邦晴	一般社団法人日本貿易会 会長 住友商事株式会社 代表取締役会長
名誉会長 (新任)	小林 栄三	前当センター会長、前日本貿易会会長 伊藤忠商事株式会社 特別理事
副会長	國分 文也	丸紅株式会社 代表取締役社長
	安永 亀夫	三井物産株式会社 代表取締役社長
	垣内 威彦	三菱商事株式会社 代表取締役社長
	藤本 昌義	双日株式会社 代表取締役社長
	(新任) 鈴木 善久	伊藤忠商事株式会社 代表取締役社長COO
(新任) 貸谷伊知郎	豊田通商株式会社 代表取締役社長・CEO	
理事長	岩城宏斗司	一般社団法人日本貿易会 常務理事
常務理事	山口 俊之	一般社団法人日本貿易会 総務グループ担当部長
理事	山本 浩幸	豊田通商株式会社 人事総務部 部長職
	菊地美佐子	三井物産株式会社 環境・社会貢献部長
	秋山 勇	伊藤忠商事株式会社 伊藤忠経済研究所長
	大野 茂樹	住友商事株式会社 サステナビリティ推進部長
	(新任) 亀岬 睦也	一般社団法人日本貿易会 企画グループ長 兼 調査グループ長
	(新任) 中谷 文彦	丸紅株式会社 市場業務部部长補佐
	(新任) 渋谷 誠	双日株式会社 サステナビリティ推進室長
(新任) 判治 孝之	三菱商事株式会社 広報部長	
監事	小島 孝夫	一般社団法人日本貿易会 理事
顧問	池上 久雄	初代当センター理事長、元日本貿易会常務理事
	吉田 靖男	元当センター理事長、元日本貿易会常務理事
	三幣 利夫	元当センター理事長、元日本貿易会常務理事
	市村 泰男	元当センター理事長、元日本貿易会常務理事
	齊藤 秀久	前当センター理事長、前日本貿易会常務理事
参与	宮内 雄史	初代当センター常務理事・事務局長
	野津 浩	元当センター常務理事・事務局長
	名鏡 敬治	元当センター常務理事・事務局長
	関 伊知郎	前当センター常務理事・事務局長

高知県の「事業戦略」策定に携わって

いまい よしひと
今井 義人 (元 東レ)

国際社会貢献センター（ABIC）は、私に人生第二の出発点を提供してくれた。40年間勤務した東レを2015年に退社。その後、1年間経産省のマネジメントメンターとして、中小企業経営のお手伝いをしていた。ABICから高知県が戦略支援経営統括を公募しているとの情報をいただき、3次試験を経て運よく採用された。ABICからの連絡がなければ、今の私はなかった。

高知県と聞いて、読者の皆さまは何を連想されるだろうか？ 私は、まず「よさこい踊り」、「南国土佐の歌」から、台風銀座、東レシンガポール時代の同僚などだった。歴史に興味があれば、坂本龍馬、板垣退助だろうか？ 経済界では三菱財閥創始者の岩崎弥太郎が最初に挙がるだろう。

では、今の高知県は全国でどんな位置付けになるのだろうか？ 全国の工業製品出荷額では、下から3本の指に入る。東証一部上場企業は1社で、その他の上場企業も数社だけだ。大学を卒業しても就職する先が少ないため、若者が戻ってこない。このため、高齢化率は全国で上から3本の指に入る。事情があって県内に残る学業優秀な学生は、県庁か銀行に就職する傾向が強く、現代の岩崎弥太郎出現は望むべくもない。

県レベルでは、就任3期目の尾崎知事が産業振興計画を強力に推進し、就業者1人当たり総生産額は6年間（2008年－2014年）で、13.2%伸びた（この間の全国平均は△1.7%）。人口が減少する状況で、省力化・効率化に向けた支援の強化と同時に、全国および海外への交易範囲を拡大することがこれからの課題になろう。戦略支援を託されている経営統括として、「事業戦略」の策定と、実行支援の

重みをかみしめながら、毎日経営者と向き合っている。

高知県に限らず、従来の経営はKKD＝経験・勘・度胸の経営が幅を利かせていた。このため従業員は社長の指示・命令に従うだけで、社長がいなければ会社はお手上げ状態に陥る。高知県は近代的な経営への改善策として、2年前から「事業戦略」策定を積極的に進めてきた。

具体的には経営者と従業員が、一緒に「事業戦略」策定に参加する試みである。まず、現状認識から課題を共有する。次に、経営分析のフレームワークであるファイブフォース分析^{*1}や、SWOT分析^{*2}を活用して自社のポジション分析を進める。中小企業がどんなニッチ市場を対象に、どんな「差別化戦略」を進めるのか、共通認識を得るのが一つの目的である。

その後、本来の目的である将来（5年後）の「ありたい姿」実現のため、取り組み課題の設定と、KPI目標^{*3}（主に数値課題）を設定し、最後の中長期業績もくろみにつなげる。経営統括としての主要な業務は、経営分析のフレームワークと現実の業務との橋渡し役である。実業界でこれまで経験したことを生かして、中小企業の「事業戦略」策定のお手伝いをさせていただいている。経営者から「事業戦略」を契機に、従業員との意思疎通がよくなったと聞くと、やりがいを感じる。最近では「事業戦略」を持つことが、県の補助金申請の要件になっており、重要性が高まってきたことを実感している。

高知県は、北は四国山地、南は太平洋に囲まれ、本州で想像する以上の閉鎖的空間にある。時空を超えて、龍馬や岩崎弥太郎が大事業を成し遂げたのは、主に県外においてであった。

高知県の企業が大きく伸びるために、全国的な販路開拓や、海外企業との取引など、外の世界との積極的な交易が課題になる。「事業戦略」にこのような視点を取り入れ、大手企業とのマッチングなどこれからも積極的に推進していくつもりである。県の企業がニッチ市場でもグローバルに認知され、若者から選ばれる企業になれるよう、微力ながらこれからもお手伝いさせていただきたい。



「日本の伝統的な食文化を英語で紹介する学術書」の出版記念パーティーで、大学の先生方と一緒に、黒一点？（前列左から2人目が筆者）

※1 ファイブフォース分析：業界の収益性を決める五つの競争要因から、業界の構造分析を行う手法

※2 SWOT分析：企業や事業の戦略策定や、マーケティング戦略を導き出すための分析フレームワーク

※3 KPI：企業目標の達成度や進捗度、プロセスを計測する重要業績評価指標

留学生支援

東京国際交流館での活動

新入館生歓迎会

4月26日（木）午後7時より東京国際交流館で新入館生歓迎会が催された。米川英樹日本学生支援機構理事・東京国際交流館館長のあいさつ、および山口俊之ABIC常務理事・事務局長の来賓代表あいさつ、レジデントアシスタント（RA）による活動紹介、乾杯のあと、歓談がおこなわれた。当日は新入館生（含む家族）170人と既入館者、職員、来賓等を含めおよそ250人が参加し広い体育館が満員となった。

春の新入館生歓迎バザー

歓迎会の2日後の4月28日（土）および29日（日）両日に恒例の留学生支援バザーが開催された。このバザーには社会貢献・ABIC委員会加盟企業とその社員、家族、個人会員、日本貿易会の役職員の方々から71箱の品物を寄贈いただき売上高15万円となった。売上金は従来通り同館の留学生支援活動に提供させていただいた。ご支援いた

いた皆さまには厚く感謝申し上げたい。また例年のように会場内にABICコーナーを設け、日本語広場講師とコーディネーターが待機し、ABICの活動や各種講座の説明、勧誘を行い12人の各種講座の申し込みを受け付けた。休日にもかかわらずご協力いただいた講師の方々にお礼を申し上げたい。
（留学生支援担当コーディネーター）



兵庫国際交流会館での活動

春の新入館生歓迎バザー

4月13日（金）の新入館生歓迎会に続き、5月13日（日）に歓迎バザーが開催された。これで8回目になるが、新入館生約55人はじめ既入館者とその友人を加え約180人がバザーに参加した。今回もABIC会員および支援企業とその社員、ならびに日本貿易会の役職員等の方々から96箱を超える広範な品物をご寄贈いただき、9万5千円の売り上げを得ることができた。この売上代金は過去最高であるが、同館の留学生支援活動資金として提供させていただいた。ご支援くださった皆さまには厚く感謝申し上げたい。

今回はバザー開始時間を従来の午前11時から正午に変更した。これは、一部の学生にとり日曜日は教会行事と重なり、バザーに参加できない人もいたため。それでも開始30分前には60人ほどが列を作りバザー開始を待っていた。兵庫国際交流会館には日本人と体型を同じくするアジア系の学生が約67%を占めている。このため、多くの夏用衣料品は、終了時間を過ぎてても買い求めていた。また、最近ABEイニシアティブに基づくアフリカからの学生が約20%と増えている。来日間もない学生にとり皆さまから提供された生活必需品の極めて安価での提供は、取り合いになるほど好評であった。特に食器、電化製品、各種生活

雑貨などには、日本の文化に興味を持つ新入館生には好評で、用途など色々質問があった。関係者からはアンケートの結果として次回も是非開催してほしいとの要望があった。バザーはRAが主体的に行ったが、関西デスクも来場者との交流を積極的に行った。

ABIC関西デスクは、バザー以外でも同館にて日本語・文化教室を2015年からスタートさせており、さらに広範囲な留学生支援活動を目指し、関西在住の会員の皆さま、お知り合いの方にこの方面のご支援、ご協力もお願いしたい。
（関西デスクコーディネーター）



その他

科学技術館の鉄鋼ボランティア活動を終えて

えがわ のりかず
江川 典一 (元丸紅)

2018年2月に科学技術館から突然連絡があり、この4月をもってボランティア制度を終了する旨の連絡が入った。急な話なので驚いたが、正直言うと最近では活動しているボランティアは私を含めて3人となっており（多い時期は常時7-8人は登録していた）、活動すべき土・日・祝祭日を3人では全てを対応できてはいなかったのが安堵した気持ちと寂しい気持ちが半々であった。今後は科学技術館のスタッフのみで対応する由である。

科学技術館は1964年の開館以来、1996年の大規模リニューアルを経て、鉄鋼連盟のブースも2006年に大規模に改装され現在の姿になっている。私は2009年夏ごろにABICから、北の丸公園内の科学技術館で鉄鋼関係のボランティアの募集があるとの連絡を受け早速応募。直ちに日本鉄鋼連盟および日本科学技術振興財団のスタッフとの面談を経て同年10月から活動に入った。

活動場所は、科学技術館の4階にある「鉄の丸公園一丁目」と称する鉄鋼連盟のブース内で休みの日に活動する鉄鋼の工作教室であった。私が参加した時には工作教室のリーダーは新日鉄住金出身の方からJFE出身の方に代わっており、その補助役として鉄鋼ビジネスに携わった商社のOB（現役の方もいた）が活動していた。

工作教室の対象は主に小学生以上（時々中学生も混じる）で、低学年は保護者同伴が条件である。毎回地球の誕生から地球の3分の1が鉄で占められていること、製鉄・製鋼・製品・リサイクルなど一連の鉄の知識をビデオで見た後



工作に入るが、午前5人、午後5人と参加人数が限られているため、いつも開館直後に定員一杯となる。他の科学館でも先端



工作教室の風景と作品



理系女スタッフと（中央が筆者）

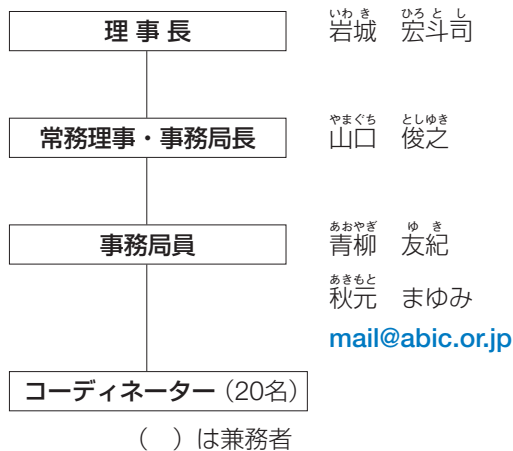
の科学を披露する施設は多いが、加えて物づくりを体験できるという意味で大変人気の高い工作教室であった。

主な工作は次の3種類である。①「鉄板を使って昆虫を作る」：缶ビールから切り出した鉄板を金切りはさみで原形を整え、プレス機（800kg）による加工、研磨、スポット溶接、色付け作業をする。季節により変わるが、「テントウムシ」「チョウチョウ」「カブトムシ」「トンボ」を作る。特に「カブトムシ」は男の子に人気抜群である。②「減摩合金でアクセサリーを作る」：鉄の融点は高く危険なので、220℃が融点の錫主体の合金を溶かし鑄込む鑄物のアクセサリーを制作する。デザインが決まればコルク板に切り込みを入れ最後に金属を流し込む湯口を決める。鑄込んだ後冷却し、予定の形が整ったら鎖を付けて完成である（われわれは金属の溶融と鑄込み、研磨作業があるので大変だが、リピーターも多く子どもの得意そうな笑顔を見ると疲れも忘れる）。最後に③「エッチングでステンレス鋼板に絵を描く」：これは特に女の子に人気のある工作である。鋼板（片面は鏡面仕上げ）は子どもの手のひらサイズだが、デザインが決まれば腐食条件を決め（当日の気温と溶液の濃度によるが液温42-43℃で約30-40秒間）塩化第二鉄の溶液に浸け水洗する。腐食に陰影を付ける技法など驚くような才能を持つ子どもに出会うと将来が明るくなるような気持ちになる。

9年弱の間、休みの日になると天気に関係なく竹橋から紀伊國坂を上り下りしながらの科学技術館ボランティア活動だったが、将来を担う子どもたちが鉄鋼のみならず科学に多少でも興味を持ってくれたのであれば私の活動は成功だったといえるのだが…。

また、最終日4月7日は鉄鋼連盟の方、科学技術館の幹部、鉄鋼ブースを担当してくれたスタッフが駆け付け、ねぎらいの言葉をいただき大変幸せであった。

ABIC事務局組織 (2018年6月1日)



- 総務・経理 めいきょう けいじ
名鏡 敬治
- 自治体・中小企業支援グループ かわまた じろう のづ ひろし しらいし いちろう たかつか けんじ やまなか けんじ
川俣 二郎、野津 浩、白石 一郎、高塚 謙次、山中 健司
smesupp@abic.or.jp
- 外国企業支援グループ にしやま かつあき みやうち ゆうじ
西山 勝昭、宮内 雄史
support@abic.or.jp
- 大学等講座グループ もり かずしげ いがり まゆみ おんだ ひではる ばんの まさのり ますい てつじ
森 和重、猪狩 真弓、恩田 英治、坂野 正典、増井 哲治
univ@abic.or.jp
- 小中高校国際理解教育グループ (宮内 雄史)
krikai@abic.or.jp
- 留学生支援グループ たなか たけお くわがた いさお
田中 武夫、鋤形 勲
abicodaiba@abic.or.jp
- 中南米デスク (森 和重)
chunanbei@abic.or.jp
- 関西デスク ふじわら てるあき たちばな ひろし よしとみ しげたか まつお けんじ かしむら かおる
藤原 照明、橘 弘志、吉富 茂隆、松尾 謙二、鹿志村 馨
kansai-desk@abic.or.jp

e-mailアドレス・住所等の変更届けはお忘れなく！

e-mail アドレス・住所などの変更がありましたらご連絡ください。
 転居先不明で返送される例が増えています。

e-mail : mail@abic.or.jp FAX. 03-3435-5970

会員の種類

種類	内容	年会費
正会員	センターの趣旨に賛同し、活動を推進し、会費を納める個人、法人および団体。(理事会の承認を得て入会)	法人および団体 1口 50,000円
		個人 1口 10,000円
賛助会員	センターの趣旨に賛同し、会費を納める活動会員、ならびに個人、法人および団体。	法人および団体 1口 10,000円
		個人 1口 5,000円
活動会員	センターの趣旨に賛同し、事業に参加しようとする個人。	不要 — —

(2018年5月末現在)

正会員

団体・法人 (16社、1団体) (社名五十音順)

〈10口〉 伊藤忠商事(株) 住友商事(株) 双日(株) 豊田通商(株) 丸紅(株) 三井物産(株) 三菱商事(株) (一社)日本貿易会
 〈4口〉 (株)日立ハイテクノロジーズ 〈2口〉 稲畑産業(株) 岩谷産業(株) 長瀬産業(株) 阪和興業(株)
 〈1口〉 兼松(株) 興和(株) JFE商事(株) 蝶理(株)

個人 (13名) (敬称略・氏名五十音順)

〈3口〉 槍田松瑩 勝俣宣夫 中村邦晴
 〈1口〉 池上久雄 市村泰男 岡 素之 小島順彦 小林栄三 齊藤秀久 佐々木幹夫
 寺島実郎 宮原賢次 吉田靖男

賛助会員

法人 (3社) (社名五十音順)

〈3口〉 (特非)賛否両論 〈1口〉 (有)イーコマース研究所 (株)エックス・エヌ

個人 (313名) (敬称略・氏名五十音順)

〈5口〉 廣瀬一郎 〈3口〉 前田茂 〈2口〉 遠藤寿一 小川秀洋 川俣二郎 久佐賀義光 公平伸夫 古知屋順
 笹倉優 三幣利夫 白石一郎 新藤哲雄 関伊知郎 高廣次郎 多田勝彦 田中武夫 新妻純一 野津浩 原芳道
 坂東寛隆 藤井眞 前田耿史 松井史郎 松尾謙二 宮内雄史 名鏡敬治 柳沢信義 山田芳正 山本一良
 〈1口〉 会川精司 相澤裕 相原正和 赤尾義弘 赤澤克夫 芦刈茂樹 東光子 安達公一 安達晋 厚浦孝之
 安部忠 阿部道弘 荒尾紀倫 荒木幸成 有田五郎 安齋正行 居内律治 猪狩眞弓 生島幸哉 石川清 石田新一
 石橋満 市川彬 伊藤栄太郎 伊東孝之 伊東泰 伊藤政志郎 井上泰日子 今井明良 今井正孝 今井義人
 植木正憲 上田巖 植田俊 上田博晟 上野和郎 植村頼母 上森義美 宇佐見和彦 内川博文 漆崎隆司
 江藤茂雄 榎友嘉 榎本啓一郎 榎本盛明 江幡吉信 遠藤研二 遠藤眞喜子 大木隆 大久保浩司 大久保徳衛
 大藏八郎 大浩義之 大坂和夫 太田俊一 大西稔男 大橋幸多 小笠原明生 岡部紘 岡本勝彦 岡本徹
 小口良喜 小國輝雄 小沢規夫 小澤清水 小畑克之 織辺重之 恩田英治 柿山章 角井信行 加古良二

(賛助会員続き)

鹿志村馨 糟谷純一 片野無事生 加藤貴美恵 加藤恒 金井好弘 嘉根俊治 金子和夫 金子康之 川嶋則男
 川村勝司 川本康博 閑林亨平 岸達也 吉川和夫 木村正文 久木田修司 櫛田光彦 楠井裕章 工藤章
 久保山毅 倉地弘之 倉光恭三 来馬公夫 黒岩浩一 黒岡誠一 鋤形勲 神野俊昭 郷原康親 古園井良 小西悟
 小林庄右工門 小林正己 小松正和 小室洋三 近野治夫 齋藤幸博 坂井啓治 坂上恵一 坂本章 坂本俊寛
 坂本行正 崎尾収 笹岡太一 笹岡治男 佐藤貴実雄 佐藤隆二 澤田豊治 塩野寛次 志岐明弘 柴崎敏男
 柴田芳孝 島谷豊 下島泉 城台巖 白土茂雄 城田比佐子 水光勲 杉浦康之 杉下由紀子 鈴木一三 鈴木成高
 鈴木高裕 鈴木紘司 鈴木昌宏 鈴木松子 須藤實 関晃典 関晴至 関統造 関口幸男 園田真一 高木純夫
 高崎浩敏 高嶋宏臣 高田弘 鷹津俊一 高塚謙次 高梨和彦 竹下浩 竹田信志 竹田真奈美 田島基二 橘弘志
 辰己元英 田中昭彦 田中剛 田中徹郎 田中理明 田邊正明 谷川達夫 谷口武彦 玉木興畠 淡野武司
 千野公弥 柘植要介 辻哲彦 辻萬亀雄 辻尾嘉文 土屋英五 都築秀之 津守克平 手塚正明 寺澤昌敏
 寺田好純 東宮邦雄 遠山晃 戸川順治 徳田均 都丸啓吉 友國洋 豊原道雄 中倉弘紀 長坂保男 中島隆一
 中園智子 仲田慎太郎 永田明司 中西孝之 永峰千年 中村彰秀 名達博吉 成重正和 西以久夫 西川裕治
 西澤俊一 西山勝昭 新田充成 根岸史修 橋本政彦 橋本勝 蓮沼恒郎 畑宏幸 花岡信明 羽生憲夫 馬場克彦
 浜田元雄 林英二 林良英 原田純 葉利博 坂野正典 日笠徹 疋田和三 菱川治 日野武彦 福田毅 福永信一
 藤井吉郎 藤井重隆 藤田卓 藤村登 藤原照明 布施克彦 舟橋金之介 保坂庄司 星野和俊 堀英一 堀江博
 前田祥治 前田直明 増井哲治 増田政靖 増本光男 松下敏明 松村直治 松本時男 松山功 松山久
 三上亜佐橘 三神博美 味田村正行 三栗敏 光山武志 峯本晴輝 宮内眞正 宮内正敬 宮川正裕 宮越忠晴
 宮本正明 武藤滋郎 本村博志 百田功 森悦郎 森岳三 森和重 森川建夫 森田眞彦 森松直毅 矢尾板健二
 柳田敏明 山内文裕 山岸正雄 山口信行 山路裕之 山田雅司 山中健司 山邑陽一 山本秀一 山本博勝
 山脇隆司 横井正豊 横田納 横山泰雄 吉川正男 吉田紘 吉田房子 吉田泰興 吉富茂隆 米谷俊二 鷲頭三郎
 和田洋 渡邊春樹

活動会員 2,848名

賛助会員入会のお願い

ABICの活動にご賛同いただき、資金的な援助をしていただける活動会員およびその他の個人の方、
 ならびに法人および団体の皆さまのご入会をお願い申し上げます。

会員入会のお問い合わせ・連絡先

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)

〒105-6123 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル23F

TEL : 03-3435-5973 FAX : 03-3435-5970 E-mail : mail@abic.or.jp